



地域おこし協力隊通信 2026.9月号

こんにちは！地域おこし協力隊の安藤伊織（あんどう いおり）です。半年間という短い期間でしたが、島の温かさに支えられながら活動し、9月末日をもって退任することとなりました。

高島の本当の良さを確かめて外へ届けるため、木村ちくわさんの工場見学や町民運動会、水産教室など多くの現場へ取材に伺いました。

また先日は、スローシティ視察でイタリアから国際連盟の事務総長がお越しになられました。

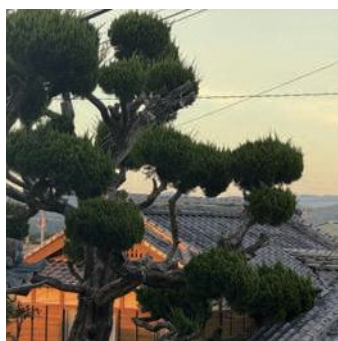
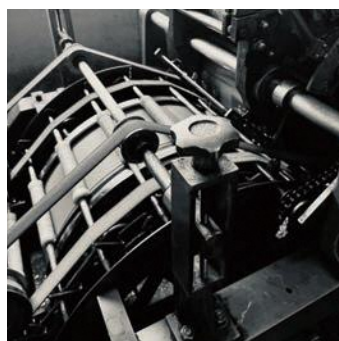
分校では「しおかぜバンド」の皆さんが校歌や笑点、新曲『島人の宝』を演奏でお出迎え！少し緊張された様子もありましたが、温かい音色が響く素敵な時間となりました。

事務総長からは「環境の質が素晴らしく人間らしく生きている」「スローシティとはより良い形を目指してアクションを起こす集団である」と感銘深い言葉をいただきました。スピード感を競うのではなく着実に事を進め、豊かな漁業などの環境を活用していく大切さを学び、高島の魅力が世界へ繋がる瞬間に立ち会えたことは大きな誇りです。

高島の皆さんには、これまでたくさんの思い出と温かい出会いに心から感謝しています。10月から新しい人生を送ることになりますが島へ遊びに来たいと思っていますので、またお会いした際はぜひ声をかけてください！これまで本当にありがとうございました。



5～7月の撮影履歴





5月24日 高島の全町民が参加する大運動会が開催されました。わずか11人の児童と園児が地域の皆さんと力を合わせ躍動する姿は熱気に溢れ感動しました。ソーラン節やバンド演奏、白熱のリレーなど見どころ満載で、私も缶釣りリレーに参戦しました。同率順位のため最後はじゃんけんで順位を決めるという、高島らしい笑顔溢れる結末に。赤ちゃんからお年寄りまで全員が主役となり声を張り上げた1日は、島の温かさとしてパワーを肌で感じる最高の思い出です。



6月5日 高島の海を守るアラカブとナマコの種苗放流取材しました。種苗とは、人の手である程度の大きさまでに育てた魚介類の赤ちゃんのこと。佐世保市水産センターから船で迎えに行き、高島の海へ放流する様子に密着しました。網ですくって豪快に投げるワイルドな放流の中、元気に育つんだぞと声をかける漁師さんの姿に感動。私たちがいただく海の恵みは、こうした地道で温かい活動に支えられているのだと深く実感しました。



7月10日 フェリー乗り場で開催された水産教室と放流イベントに密着しました。アラカブの生態を学んだ児童や園児たちが、稚魚を元気いっぱい海へ放流。その次はボートで沖の牡蠣筏へ渡り、2週間だけ泳ぐ牡蠣の不思議や養殖現場を見学しました。大不漁から20年越しで復活させ、水温29度という夏の厳しい海を守り抜く職人さんの情熱に感動。高島の豊かな海と、それを未来へ繋ぐ人々の温かさを深く実感した1日になりました。



編集後記

短い期間でしたが、大変お世話になりました。

みなさんの温かさに支えられた半年間は、私にとってかけがえのない宝物です。

また成長した姿で遊びに来ますので、見かけたときはぜひお話しさせてください！